



---

政治専攻「演習1」  
第1期第1次募集

---



## 【目次】

1. 募集について	1 頁
2. 募集に関する注意事項	2 頁
3. 選考方法	3 頁
4. ゼミ内容	5 頁
➤ 稲垣 浩先生	5 頁
➤ 上神 貴佳 先生	6 頁
➤ 小原 薫 先生	7 頁
➤ 菊田 真司 先生	8 頁
➤ 坂本 一登 先生	9 頁
➤ 佐藤 俊輔 先生	10 頁
➤ 芝崎 祐典 先生	11 頁
➤ 藤嶋 亮 先生	12 頁
➤ 宮下 大志 先生	13 頁
➤ 羅 芝賢 先生	14 頁

# 1. 募集について

## 【募集スケジュール】

第 1 期 第 1 次 募 集	
応 募 期 間	2021年10月7日（木）正午～10月13日（水）12時50分
選 考 期 間	2021年10月15日（金）～10月22日（金）
合 否 発 表	2021年10月29日（金）20時予定 K-SMAPYIIにて

※第1期第2次募集の実施は第1期第1次募集の応募状況によって決定します。実施する場合、すべての教員に応募できるとは限りませんので、予めご了承ください。

第 1 期 第 2 次 募 集	
応 募 期 間	2021年11月1日（月）正午～11月5日（金）12時50分
選 考 期 間	2021年11月8日（月）～11月13日（土）
合 否 発 表	2021年11月15日（月）20時予定 K-SMAPYIIにて

※第1期第2次募集において、全1年生が登録できていない場合に限り、未確定者を対象に第1期第3次募集を行います。

## 【応募方法】

### **K-SMAPYII** より

※ログイン後、上部バナー「アンケート」より応募してください。

※K-SMAPYIIからの応募がなく面接を受けるまたは課題提出だけをしているケースがありましたので必ずK-SMAPYIIからの応募も行ってください。応募がない場合は無効になります。

[【目次に戻る】](#)

## 2. 募集に関する注意事項

- (ア) 上記の募集期間に必ず応募してください。応募期間外の応募は認められません。
- (イ) K-SMAPYIIからの応募がなく、面接を受ける、または課題の提出だけをしているケースがありましたので、必ずK-SMAPYIIから応募も行ってください。
- (ウ) 担当教員によって選考方法（面接・レポート・テストなど）は異なりますので、「選考方法」で必ず内容を確認の上、応募するようにして下さい。
- (エ) 毎年ありますが、提出期限を超えたりレポートの提出は認められませんし、面接時間への遅刻・面接の欠席に関する取り次ぎはいたしません。
- (オ) 政治専攻では、同一年度に複数ゼミを受講することが出来ます。2つ目のゼミを希望する場合には11月に行われる**第2期募集**で応募できます。
- (カ) ゼミに合格後、他のゼミへの変更はできません。
- (キ) 各教員の連絡先は個人情報のため、お教えできません。
- (ク) ゼミ応募に関する問い合わせ先は以下のとおりです。

### 【問い合わせ先】

教務課	①9時～12時50分 ②13時50分～20時30分
法学資料室（若木タワー7階）	①9時～17時

※月曜日～土曜日で受け付けます。

※日曜日・祝日は学年暦に準じ、授業実施日に限り開室いたします。

### 3. 選考方法

希望する教員の選考方法を確認してください。

例年、レポートの提出期限や面接日時を間違えているケースがありますので、ご注意ください。

教員名	選考方法	提出方法・レポート締切日時	レポート内容	備考
		面接日時	面接教室	
稲垣 浩	レポート	メール送付 inagakih@kokugakuin.ac.jp 10月13日（水）12時50分	① 最近気になった行政・地方自治の話題 ② 本ゼミへの志望動機	（書式）A4用紙 （40字×36行） （字数） 題目①500字以上 800字以内 題目②300字程度
	面接	10月15日（金） 11時00分～	オンライン	
上神 貴佳	レポート	K-SMAPY II アンケート画面で回答 10月13日（水）12時50分	本演習を志望する理由 <u>（メールアドレスを記入すること）</u>	（書式）自由 （字数）1,000字
	面接	10月18日（月） 17時00分～	オンライン	
小原 薫	レポート	メール送付 ohara@kokugakuin.ac.jp 10月15日（金）17時00分	小原ゼミへの志望理由と、最近関心のある政治・社会の問題	（書式）自由 （字数）800字程度
	面接	10月19日（火） 12時00分～12時50分	オンライン	
蒯田 真司	レポート	メール送付 karita@kokugakuin.ac.jp 10月20日（水）12時50分	自己紹介とゼミの志望理由	（書式）Word形式 A4横書き （字数）800字程度
	面接	10月22日（金） 12時10分～	オンライン	
坂本 一登	レポート	メール送付 kazutos@kokugakuin.ac.jp 10月14日（木）17時00分	志望理由と最近関心をもった政治的出来事	（書式）自由 （字数）1,000字
	面接	10月15日（金） 16時10分～17時10分	オンライン	

教員名	選考方法	提出方法・レポート締切日時	レポート内容	備考
		面接日時	面接教室	
佐藤 俊輔	レポート	メール送付 s.sato@kokugakuin.ac.jp 10月13日（水）12時50分	①演習の志望動機 ②国際関係の中で関心のある事柄について	（書式）A4・Word （字数）1,000字以上
芝崎 祐典	レポート	メール送付 lecture.shibazaki@gmail.com 10月21日（木）21時00分	ゼミ志望理由と勉強の中で今まで最も関心を持ったこと	（書式）Word （字数）800字～1,000字
藤嶋 亮	レポート	メール送付 rfujishima@kokugakuin.ac.jp 10月13日（水）12時50分	簡単な自己紹介、ゼミの志望理由、関心のある政治・社会問題について	（書式）自由 （字数）それぞれ400字程度、計1,200字 <u>必ず連絡がつくメールアドレスをレポートに記載してください</u>
	面接	10月18日（月） 12時30分～16時00分	オンライン	
宮下 大志	レポート	メール送付 miyashita@kokugakuin.ac.jp 10月13日（水）19時00分	今回の自民党総裁選挙を見ていて何を考えたか	（書式）自由 ただしWordファイルかPagesファイルでメール添付提出 （字数）1,200字
	面接	10月15日（金） 14時40分～	若木タワー8階0810研究室集合	
羅 芝賢	レポート	メール送付 j-na@kokugakuin.ac.jp 10月13日（水）12時50分	①ショシャナ・ズボフ『監視資本主義』の第1章を読んで、著者の主張に対する自分の意見を述べて。 ②ゼミの志望理由	（書式）自由 （字数）800～1,000字

[【目次に戻る】](#)

## 4. ゼミ内容

[【目次に戻る】](#)

教員名	稲垣 浩
演習テーマ	行政・地方自治の動態分析
演習内容	<p>このゼミは、文献の講読や実地調査などを通じて、行政・地方自治の現状や動態に迫ろうとするものです。2021年度は、人口減少、アートプロジェクトとコミュニティ、ニュータウンのコミュニティ政策、地域づくり、市街地活性化、LRTとまちづくり、下町の再開発、多文化共生と外国人の役割、山村のむらおこしなど、身近な地方自治に関する文献を読み、考えてきました。また、予め文献を読んで実際に現地で調査をおこなうなど、コロナ禍においても、可能な範囲で「現場」での学びも大切にしています。</p> <p>2022年度も、今年度と同様、前期は全員で行政・地方自治に関する図書（主に、地方自治関係雑誌掲載の論文、地方自治関係のテキストなど）を読み、報告者による発表、ゼミ生全員にコメントペーパー（A41枚程度）の提出、少人数でのディスカッションを行います。夏休みから後期にかけては、各自の関心に基づいて研究テーマを設定し、それらについて調査・研究した内容を論文にまとめます。夏休み中には、自治体等の視察を含めた合宿や、学期中の他大学との合同ゼミなども行うほか、一年を通じてまちあるきや自治体へのインタビューなどを可能な範囲で行う予定です。</p> <p>フィールドワークや取材など、外部との接触が多くなることが予想されますので、外部の方々に礼儀正しく接することができる学生、またはそれらの能力を高めたいと考える学生を求めます。また、他者とのディスカッションができる学生を求めます。</p> <p>課題レポートには、取り上げるテーマが「なぜ」気になったのか、応募者のプライバシーを過度に犠牲にしない程度で具体的に明記してください（題目①）。また、志望動機を300字程度で記入して下さい（題目②）。</p>
教科書	授業中あるいは授業前に適宜指示します。
参考文献	<p>中野邦彦・本田正美（2021）『地域研究ハンドブック』勁草書房      磯崎・金井・伊藤（2020）『ホーンブック地方自治（新版）』北樹出版      曾我謙悟（2019）『日本の地方政府』中公新書      辻陽（2019）『日本の地方議会』中公新書 など</p>
備考	<p>上記の参考文献は、行政・地方自治の現状や基礎知識を知るための参考文献であって、ゼミ生全員で講読するものとは限りません。また、2年次において行政学A・Bやフィールドワーク（稲垣担当分）を履修しているとゼミでの理解が深まるでしょう。</p> <p>面接は指定の日（10月15日）にオンラインで行いますが、具体的な日時は応募者とメールにて事前に調整する予定です。そのため、提出するレポートに連絡先（メールアドレス）を必ず記載し、こちらから送付するメールを必ず確認するようにしてください。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	上神 貴佳
演習テーマ	歴史としての平成と日本政治
演習内容	<p>平成も約30年をもって、令和という新たな時代を迎えることになった。歴史としての平成一をどのようにとらえればよいのだろうか。とくに昭和との関連で平成の政治や経済、社会の課題を理解することを試みつつ、次の時代を展望してみたい。</p> <p>近年、平成一を振り返るさまざまな書籍が出版されている。本演習の教科書としては、小熊編（2019年）などを用いることにする。教科書の読破は、受講生に求められる最低限の課題である。複数のテキストを読み比べつつ、本演習のテーマ（歴史としての平成と日本政治）について、自分なりの理解を得られるように、各自が学習を進めてもらいたい。</p> <p>本演習の進め方については、グループに分かれて、報告班と質問班を交互に担当することを想定している。また、いずれの担当になるかによらず、毎回、参加者全員がレジュメを提出する。演習の最後には、各自が本演習のテーマに沿って、レポートを作成して提出してもらう。</p>
教科書	小熊英二（編）『平成史【完全版】』河出書房新社，2019年。
参考文献	薬師寺克行『現代日本政治史』有斐閣，2014年。 佐藤優・片山杜秀『平成史』小学館，2018年。 など
備考	



[【目次に戻る】](#)

教員名	小原 薫
演習テーマ	今日を取り巻く政治の問題を考える
演習内容	コロナ禍によって、今まで普通とされていたことができなくなり、生活習慣からありとあらゆるところまで変化が生じた。そして、ますます、経済構造においては格差が進行している。前期は、この日本の現状について、新書を中心として購読・討論を行う。後期は、参加者が自分の問題関心に基づいて調査・研究し、最終的にゼミ論文の完成を目指していく。積極的に討論に参加する意欲的な学生の参加を歓迎する。
教科書	適宜、指示します。岩波新書、中公新書等を予定しております。
参考文献	
備考	

[【目次に戻る】](#)

<b>教員名</b>	<b>菊田 真司</b>
<b>演習テーマ</b>	民主主義の可能性
<b>演習内容</b>	<p>最近、民主主義が危機にあるとよくいわれます。アフガニスタンやミャンマーでの民主主義の全面的な後退だけでなく、民主主義が確立しているはずの国々でもポピュリズムや権威主義の拡大が拡大しています。こうした現象を見ると、確かに民主主義の将来は、かつてのように楽観的に考えることのできない状況にあるように思えます。</p> <p>しかし、そもそも私たちは、現代の民主主義という政治制度について、どの程度正確に理解しているのでしょうか？民主主義は、どのような価値を実現するもので、民主主義が健全に機能している状態というのは、どのような状態なのでしょうか？</p> <p>今年度の演習は、「民主主義」をテーマとして、現代の民主主義がどのようなしくみでなのかを、主に思想の側面から考えてみることにします。そして、「くじ引き民主主義」（ロトクラシ）という、いささか奇妙な制度を材料に、民主主義が持つ可能性を、いっしょに検討していきたいと思います。</p> <p>演習参加者は、これに加えて、自分の好きなテーマについて論文を執筆してもらい、論文報告会で報告してもらいます。論文は、基本的に演習時間外に執筆してもらいます。</p> <p>参加を希望する人は、あなたの人となりを理解することができる「<u>自己紹介</u>」と、「<u>ゼミの志望理由</u>」を合わせて800字程度(Word形式)にまとめて、10月20日(水)12時50分までに、メールで <a href="mailto:karita@kokugakuin.ac.jp">karita@kokugakuin.ac.jp</a> まで送付してください。折り返し、面接用のZoom情報を送付しますので、確認しやすいメールアドレスから送ってください。</p> <p>なお、選考にあたっては、議論に積極的に参加する意欲のある人を優先します。</p>
<b>教科書</b>	<p>宇野重規、『民主主義とは何か』、講談社現代新書、2020年</p> <p>空井護、『デモクラシーの整理法』、岩波新書、2020年</p> <p>ダーヴィッド・ヴァン・レイブルック、『選挙制を疑う』、法政大学出版局、2019年</p>
<b>参考文献</b>	<p>山本圭、『現代民主主義』、中公新書、2021年</p> <p>権左武志、『現代民主主義 歴史と思想』、講談社選書メチエ、2020年</p>
<b>備考</b>	<p>面接当日に都合が悪くなった場合、および、演習の進め方やとりあげる文献等についての質問がある場合には、<a href="mailto:karita@kokugakuin.ac.jp">karita@kokugakuin.ac.jp</a> までメールで申し出てください。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	坂本 一登
演習テーマ	国際関係と昭和前期の日本
演習内容	<p>なぜ日本は、敗北が明白な戦争をしたのだろうか。その答えは、当時の日本の政治指導者や軍事指導者の無能さ、侵略欲、あるいは学習能力の欠如に見いだされるのが一般的だろう。歴史の結果、とりわけその犠牲の大きさを知るものにとって、当時の指導者の無能や無知および侵略欲を厳しく追及することは、道義的にも正しく、かつ当然のことに見える。またそれは、昭和戦前期の日本に固有の問題で、現在の日本や自分たちとは関係のないことと思えるかもしれない。しかし、それは本当だろうか。事態はそれほど単純ではない。実際、当時の国家指導者たちが、日米の国力の格差に盲目だったわけではないし、当時の英米が常に一体だったわけでもない。むしろ、当時の指導者たちは、意外に思われるほど、国力の違いの大きさや国際関係の複雑さを理解していた。にもかかわらず、戦争は選択されたのである。そうであれば、その理由について改めて知りたくなる。ここ2-3年、その理由について日本の国内的事情および英米の事情から、考えてきた。来年度は、これに加えて、当時の国際関係から、すなわち、第1次世界大戦の反省から、戦争を抑止するために創設された国際連盟が、なぜ日本の行動を阻止できなかったのかという問題を通して、昭和前期の日本と戦争を考えてみたい。</p>
教科書	<p>クリストファー・ソーン：満州事変とは何だったのかー国際連盟と外交政策の限界 草思社 翻訳 1994</p> <p>小林道彦：近代日本と軍部ー1868-1945 講談社現代新書</p>
参考文献	山本七平：一下級将校の見た帝国陸軍
備考	<p>演習希望者で、指定の時間が不都合な場合は、メールで連絡ください。調整します。 (kazutos@kokugakujin.ac.jp)</p> <p>なお、演習は、前期は文献講読、後期はゼミ・ペーパー（4,000字程度）の作成になります。</p>

[【目次に戻る】](#)

<p><b>教員名</b></p>	<p><b>佐藤 俊輔</b></p>
<p><b>演習テーマ</b></p>	<p>自由主義的な国際秩序とその行方</p>
<p><b>演習内容</b></p>	<p>本演習は、国際政治の現在に関して学びを深めていくため、大きく分けて以下の3つを行うことを予定しています。</p> <p>①共通テーマ「自由主義的な国際秩序とその行方」に関する指定文献の輪読・討論（通年）                  ②数名ずつに分かれ、共同で決定した主題につきグループでの研究・発表（前期）                  ③個々人の関心に基づく演習論文の執筆（後期）</p> <p>演習の主要な主題となるのは「自由主義的な国際秩序とその行方」であり、それに関わる様々な文献を輪読し、議論していくことです。近年、英国のEU離脱や米国におけるトランプ政権の成立を契機として、一方では先進国内部におけるポピュリズムの高まりや格差の問題が、他方では国際的な権威主義体制の高まりが指摘されるようになりました。とりわけ米中の対立が様々な側面で表れるに従い、従来アメリカを中心に形成されてきた「自由主義的な国際秩序」が揺らいでいるのではという点が国際政治における大きな論争の焦点となっています。本年度の演習では、様々なテキスト、参考書籍、論文等を渉猟する形でその論争の内容を吟味し、全員で議論を行うことで、現在の国際政治についての知見を広め、分析を深めていくことを目指します。（下記の教科書、参考書は現時点での予定であり、開講時にはその時点までの議論の状況や参加者の人数、参加者の関心、負担等を考慮して変更を加えることがあります。）</p> <p>これと並行する形で前期にはグループでの研究調査・報告を行い、後期には個々人の関心に応じて演習論文の執筆に向けた主題決定、調査および途中報告を行い、全員で議論を行っていきます。演習論文は、共通のテーマに限らず、広く国際関係に関する事柄のなかから自由に主題を設定して頂いて、演習の終了時まで論文を執筆し、提出して頂くことが目標となります。</p>
<p><b>教科書</b></p>	<p>納家政嗣・上智大学国際関係研究所編『自由主義的国際秩序は崩壊するのか—危機の原因と再生の条件』勁草書房、2021年（予定）</p>
<p><b>参考文献</b></p>	<p>佐橋亮『米中対立—アメリカの戦略転換と分断される世界（中公新書 2650）』中央公論新社、2021年                  イワン・クラステフ『模倣の罠—自由主義の没落』中央公論新社、2021年                  ブランコ・ミラノヴィッチ『資本主義だけ残った—世界を制するシステムの未来』みすず書房、2021年 等</p>
<p><b>備考</b></p>	<p>共通のテーマに関する上記の参考文献等は予定であり、変更することがあります。また、書籍だけでなく様々な論文を抜き出して配布する予定です。</p>

[【目次に戻る】](#)

<p>教員名</p>	<p>芝崎 祐典</p>
<p>演習テーマ</p>	<p>国際関係論／国際関係史</p>
<p>演習内容</p>	<p>前期は国際関係論や国際関係史に関する研究専門書を輪読します。割り当て箇所を発表してもらい、それをもとに参加者全員で討議します。読んでもらう課題文献の分量は少なくなく、密度も高いものなので、積極的に勉強したい学生を歓迎します。</p> <p>輪読する文献は年度によって異なりますが、政治、経済、文化、環境などを歴史的視座から論じたものの中から選んでいます。</p> <p>後期は参加者各自が設定した個人研究テーマについての発表や、各自で選択した文献に基づいた報告を行います。個人研究テーマ設定は前期に扱う共通テーマの範囲内である必要はなく、広く国際関係論や国際関係史のなかから関心のあるトピックを自由に探してもらいます。これについて各自がリサーチし、年度の最終に各自の研究テーマをゼミ論（研究論文）にまとめて提出してもらいます。テーマ設定や研究の進め方、論文の書き方などの方法論について随時指導します。</p> <p>演習の無断欠席は認めません。</p> <p>ゼミに応募を希望する学生は、以下のレポートを Word で作成して応募期間内にメールで送付してください。          （メールの件名に「國學院演習応募」と記してください。）          (1) ゼミ志望理由、(2)勉強の中で今まで最も関心を持ったこと（国際関係論や国際関係史に限らず、何の分野でも良い）：この二つを盛り込んで自由に文章を作成してください。</p>
<p>教科書</p>	<p>開講後にご案内します。</p>
<p>参考文献</p>	<p>適宜紹介します。</p>
<p>備考</p>	

[【目次に戻る】](#)

教員名	藤嶋 亮
演習テーマ	ポピュリズムと民主主義
演習内容	<p>政治をめぐるニュースや議論のなかで、「ポピュリズム」という言葉を耳にしたことはあると思います。この言葉は、歴史的には人民主義などと訳されてきましたが、近年では、単なる人気取りの政策や、「敵」を名指しして国民を煽る無責任な政治として、批判的に使われることが多くなりました。実際、ポピュリズムのマイナス面は、日本に限らず、ヨーロッパやアメリカにおいても大きな問題となっています。その一方で、民主主義である以上、「大衆的な人気」自体は望ましい、必要なものであるとも言えます。また、ポピュリズムが成長する背景には、現在の政党政治の問題点、さらには社会の大きな変容が存在すると考えられます。本演習では、まず、ポピュリズムとは何であるのかという観点から、その歴史の変遷や多様なあり方について整理します。その上で、現在ポピュリズムが「流行」している理由について考察し、民主主義とは切っても切り離せない、この現象との付き合い方について考えていきたいと思います。授業の進め方としては、前期はポピュリズムや民主主義をテーマとした新書・概説書、後期はポピュリズムに関するやや専門的な文献を全員で読み進めます。後期はさらに、参加者が関心を持った個別テーマの報告を行います。また、初回の授業時に、各回の担当班を決定し、第2回目以降、発表と全員が毎回事前に提出するコメントに基づき、内容の確認や検討、討論を行います。取り上げるテキストはいずれも骨太の内容であり、関係するテーマ・領域も多岐にわたりますので、自分なりの関心・問題設定に基づいて、毎回の演習に臨む姿勢が期待されます。</p>
教科書	C・ミュデ、C・R・カルトワッセル『ポピュリズム：デモクラシーの友と敵』（白水社、2018年）、アダム・プシェヴォスキ『それでも選挙に行く理由』（白水社、2021年）
参考文献	水島治郎『ポピュリズムとは何か』（中公新書、2016年）、ヤン＝ヴェルナー・ミュラー『ポピュリズムとは何か』（岩波書店、2017年）など
備考	



[【目次に戻る】](#)

<p>教員名</p>	<p>宮下 大志</p>
<p>演習テーマ</p>	<p>日本の政治、日本の民主主義、そして日本の未来、どうしよう？</p>
<p>演習内容</p>	<p>日本の政治、日本の民主主義、そしてこれからの日本のあり方について論じてみたいと思います。</p> <p>日本の政治と民主主義は、かつては「55年体制」のもと、かわりばえのしない、そしてあまりよくないイメージで見られてきました。しかしみなさんの生まれる10年ほど前、その「55年体制」が崩れ、また日本の政治状況の変化もあって、55年体制の時代とは違う要素も出てくるようになりました。一応、政権交代も起こりましたが、その後「〇〇一強」という状況になって、しかしその後まさに直近の情勢ではまた変化の兆しも見せています。</p> <p>そして社会の状況としては、格差問題、女性の権利の問題などをどうするべきか、問いかけられている状況ではないかと思います。</p> <p>そこで来年度のゼミでは、この日本の政治・民主主義について、どう評価すべきか、今後はどうなるのが望ましいかなどを論じてゆきたいと思います。</p> <p>そしてそのために、過去の日本の政治を検討したり、現在の問題点を考えたり、今後のあるべき姿を議論したり、ということを行なう予定です。</p> <p>そしてその際には、欧米との比較や理論的考察も盛り込めたら、とも考えています。</p> <p>なお、応募者は、「今回の自民党総裁選挙を見ていて何を考えたか」というテーマで、自分なりの評価を記したレポートを期日までにメール添付で提出してください。もちろん、あなたの政治的指向性で判断するわけではなく、「どれだけ考えているか」を見たいのです。その際、必ずメール本文に応募者の氏名を明記してください。</p>
<p>教科書</p>	<p>開講時に指定します</p>
<p>参考文献</p>	<p>必要に応じて紹介します</p>
<p>備考</p>	<p>面接は、対面での面接としたいと思います。個別面接ですので、全体としては10/15（金）の14:40開始ですが、その時間に集合していただいた上で、個人個人の面接時刻を指定します。面接の日時にどうしても都合がつかない、あるいは開始時間を配慮してほしい（「4限にオンライン授業があるのでその前に設定してほしい」など）、さらには対面の面接は避けたいといった場合は、レポート提出の際のメールで知らせてください。メールでのやりとりで相談させていただきます。</p> <p>なお、面接は一人15分ほどを予定しています。ですので、応募者が例年になく多くならない限り、当日の対面での面接は遅くとも17時には最後の面接を終えられるかと思っています。</p>

[【目次に戻る】](#)

<b>教員名</b>	<b>羅 芝賢</b>
<b>演習テーマ</b>	AI と行政
<b>演習内容</b>	<p>AIが人間の意思決定を助けるようになると、行政の現場はどのように変化していくのでしょうか。この問題に関しては、これまでもさまざまな議論が繰り広げられてきました。その中には、単純作業をAIに任せて、職員は今までよりもクリエイティブな仕事に集中できるようになるという意見もあれば、AIが人間の仕事を奪ってしまうだろうという意見もあります。あるいは、保育園や介護サービスなどに対する人々の需要を予測し、より迅速でかつきめ細かなサービスを提供できるようになるという期待も寄せられています。しかしその一方で、AIが判断の根拠とするビッグデータは現実社会の歪みをそのまま反映しているために、それを利用することで女性差別や経済的格差といった問題をさらに助長してしまう恐れがあるという指摘も浮上しています。</p> <p>この授業では、こうしたさまざまな議論が展開されている中で、いかなる要因が行政におけるAIの導入を進めたり、妨げたりしているのか、また、AIが行政職員と市民をより自由な状態へと導く可能性はあるのかといった問題について検討します。</p>
<b>教科書</b>	ショシャナ・ズボフ『監視資本主義（野中香方子訳）』（2021年、東洋経済新報社） ※教科書は毎年変わります。
<b>参考文献</b>	適宜紹介します。
<b>備考</b>	前期は、報告の仕方、コメントの仕方、参考資料検索の仕方などを身につけることを目標とします。後期は、輪読を完了した後、研究デザインの方法を学び、研究報告会を行います。また、資料収集の仕方を学ぶため、国会図書館や公文書館への「遠足」も予定しています。